

日時 令和7年1月14日（火曜日）14時から16時まで

場所 大阪府咲洲庁舎41階 会議室8

出席者 委員（◎部会長、○部会長代理）

伊藤 央二 中京大学 スポーツ科学部 教授

大前 千代子 大阪車いすテニス協会 顧問

○富山 浩三 大阪体育大学 スポーツ科学部 教授 学長補佐

春名 秀子 桃山学院教育大学 人間教育学部 人間教育学科 講師

◎比嘉 悟 近畿医療専門学校 副校長

横山 久代 大阪公立大学 都市健康・スポーツ研究センター 教授

オブザーバー

大阪市 経済戦略局スポーツ部スポーツ課長

公益財団法人大阪観光局 観光事業部観光コンテンツ開発担当部長

1 開 会

- 事務局 部会委員の二分の一以上が出席し、部会運営要領第4第2号に規定する定足数を満たし、会議が有効に成立していることを報告

2 議 事

〔質疑応答等〕 □・・・部会長 △・・・委員 ■・・・事務局

（1）議題1 第3次大阪府スポーツ推進計画の進捗管理について

- （資料2-1及び資料2-2により進捗状況について説明）

△ 質問だが、例えば、7ページのスポーツ振興課の事業で、満足度が90%以上という報告があったが、このような調査は、今後の達成率にも関わってくると思うが、満足度を測ったり、実施率を測ったりというような数字を出してくる調査というのは、どのようにされているのか。

■ このイベント参加者の満足度を測るのは、実際にイベントに参加していただいた方に対して、イベントの内容がどうだったか等も含めて採っている。色々なイベント会場で実施しているが、満足度だけではなく、どのコンテンツが楽しかったとかという項目等も聞いているので、それを次のイベントとかに反映して、さらなる満足度向上などを図っていきたいと考えている。

△ 資料はこれでよいのだが、例えば、国の委託事業だとか、そういう括りみたいなのが分かると、分かりやすいかと思ったので、将来的にで結構なので、ご検討いただければと思う。

何が言いたかったかと言うと、我々も色々な所で調査をするので、大学などをうまく使っていただいてもいいのでは、という提案のつもりで申し上げた。

△ 前回の年末の会議のときに、各市での地域スポーツクラブ活動の報告を受けて、色々見ていたが、2ページの上にある府立学校と一応括りになっているが、前回に色々示していただいたのは、ほとんど中学校の取組が多かったかと思う。ここに出てくるのは府立学校となっているので、高校というのはどうなっているのか、予算の計上もあるが、その辺をお聞きしたい。

■ ここの主要事業に載せているのは、高校の部分になる。大きく部活動の改革として、今、動いているのは、国が委託事業、補助事業という形で、国が予算を計上してやっている部分が中学校の分になる。今の大阪府の動きを、昨年末にご説明差し上げたことと、計画の見直しの部分に盛り込んでいるという状況である。

主に事業として、我々が府立で進めているのは、府立学校の部活動指導員を配置していこうという部分である。これも、先生方の働き方改革の一環であり、先生が顧問として専門的な指導ができないので、それに代わる指導員を配置しようというもの。

そこに出てきている大阪モデルという部分では、近隣の2校で、合同で部活動をすることで、A校には専門の先生がいて、B校にはいないので、A校に集まって部活動をしよう、というような制度設計を令和4年度にして、令和5年度から始めたというところである。

中学校と違い、今のところは、高校の部活動を地域に移行していくという動きではなく、部活動という部分のなるべくいい部分を残しつつ、とはいえ、一つの学校で部活動が成り立たなくなってきた部分でも、子どもたちの満足感を上げていくためには、近くの学校と、少しでも大人数で、試合形式ができるような部活動を進めていこうというもの。そこに指導者がいない場合は、指導員を配置していくということで、多額の予算を計上して何とか進めている状況である。

ただ、現場としては、隣の学校と言いながらも、そこには部活動がないじゃないかと、土曜日・日曜日でやりたいときにできないじゃないかと、両校で専門性のある先生がいるから合同ではできないとか、色々な課題が、まだまだたくさんある。とはいえ、少子化も進んでいく中、何とかして部活動を継続させていこうという動きの中で、今、進めているのが府立高校の部分である。

△ 部活動の指導員の配置の件で、まず、近隣校での合同の部活動に参加している生徒・保護者であったり、指導員の派遣を受けている場での活動をしている生徒・保護者、あるいは教員や実際に派遣されている指導員の現場の声と言うか、どのような点に課題があるのか。両方に専門の教員がいて、なかなか合同ではできないとか、今後、これを進めていくうえで、どういった点に課題があるのか、という現場の声などを把握されていたら教えていただきたい。

■ これは令和5年度から始めたが、この予算を取るために、いわゆる自転車で行けるような距離の学校でペアを、こちら側が指定する形で組んだ状況である。去年は合同部活動を実施した生徒や、ペアを組んだ学校の先生方にオンラインでできるアンケートを採ったところ、子どもたちにとっては、少なかったらできる練習も限られているという部分があって、隣の学校と試合形式ができるという部分では、すごく肯定的な評価が多かった。ただ、少数の意見ではあるが、学校の練習のやり方が合わないとか、先生と方向性が合わないとかがあり、「もう、行きたくないな」という生徒の声も、少数ながらあった。

基本的には、土曜日・日曜日に合同部活動を実施するのが当初の内容であり、土曜日は活動していて日曜日は活動していないなど、お互いが合わなかったり、なかなかうまくいかなかったり、部活動の方針や練習の強度等にも差があり、なかなか難しいということは課題として挙がった。一方で、少数であることから普段の練習が満足にできないということで、相手校とやることで、試合形式や上手な人を参考にできるとか、肯定的な評価も高かったというのがアンケート結果である。

無理矢理させられるというのが、先生からもすごく抵抗感が大きくて、元々は子どもたちのために何とかしようと思っているが、実は、既にやっているところも多かったり、先生たちが前向きではなかったりということもある。どうしても自分たちの生徒のことを考えるので、移動するのに事故があったらどうするのかとか、向こうの学校に任せて生徒だけで行かせた場合、生徒たちが何か問題を起こしたらどうするのかとか、心配が先に走り、なかなか一歩足が前に出ないというのが、令和5年の当初のところであった。

一方で、本当に相手校に任せれば、自分も休みが取れる、ということや、お互いに行き来することで先生の業務も半分になったとか、そういう意見もあり、うまくフィットすればすごく進むが、状況によってはなかなか進まない、ということもあった。

今年度からは、できるだけやりやすい学校も選べることにして、いわゆるペアで組んでいたのを、グループにして、A校だけではなくて、B校もとか、C校もとか、そういうようなグループでやるようにすれば、柔軟性が高まり、指導員の配置も増えた、というのが今回の結果である。

△ 非常に工夫を懲らしつつ進めておられる様子が分かった。メリットばかりではないということも含めて、どうやって関係者とコンセンサスを取っていくのか、今後、進めていく上で非常に大事だと思った。

△ 障がい者スポーツ大会のことで、府の大会の参加者数は増加しているということだが、新規に参加する方が、毎年どれぐらいいるのか、おおよそでも結構なので、把握されているかどうかをお聞きしたい。

あと、ねりんピックに関しても、同様に計画に沿って進めていく場合、どれだけ裾野を広げられるかということが重要かと思うが、新規にどれぐらいの方が入っているのか、というのを教えていただきたい。

■ 昨年度に委員から、「新規の数について把握して目標設定をするべきではないか」というご意見をいただき、今年度、その数字を作ろうと試みたが、申込みに関しては、過去の数字でデータがなく、各市町村の担当窓口、大阪府障がい者スポーツ協会も、過去のデータを拾うことはできない、という回答であった。

大会の新規について、来年度の府の大会からは、自身の申請だが「以前に大阪府の大会に出たことはあ

りますか・ありませんか」というところで、新規の数を一齐に拾えるようにしている、という状況である。

- ねんりんピックにご参加いただく選手団の方の選考方法だが、各種スポーツ連盟、例えば、剣道連盟やソフトボール連盟に、大阪府から委託した地域福祉推進財団という一般社団法人から各種選考会を実施するようお願いして、そこから選考していただいた方を出していただく、という形になっている。

そのため、誰が挙がってくるかというのが非常に判断しづらい部分があって、去年も選考会には出ているけれど、大会には出られずというパターンであったり、ねんりんピックによって競技が変わったりするという事情もあって、正確に新規参加者を測るというのが非常に困難な状況である。

一応、地域福祉推進財団の方には、一度、新規参加がどれぐらいかという質問も出たことがあって、今後は、昨年参加している人がどれぐらいいるのかについて特定して欲しい、というお願いはしている最中であるが、新規参加に関して、正確に測ることや、同じ人が連続で参加するのを禁止するようなことは非常に難しい状況であるので、新規参加の方の算出方法等については、またこちらの方で検討していきたいと思っている。

- △ 障がい者スポーツ大会については、参加者数の増加に比べると、新規の方の増加が多いように思ったので、体験会など、裾野を広げる活動が実を結んでいるのかと拝聴した。

- △ 大阪マラソンの海外ランナーのエントリー数が、今年度も非常に伸びているということだが、海外ランナーのエントリー数は伸びているが、国内のランナーと同じような選考方法、抽選方法なのか、海外ランナーのほうが優先的に走られるのか。

- 抽選は組織委員会の方で、事業委託も交えた中で行っている。国内・国外の損得があつてはいけないので、そこは、できるだけ公平になるように配慮しているかと思うが、詳細にどういう割合で行っているかというのはオープンにされていないので、こちらでは把握していない。

- △ エントリー数自体が、コロナ禍を経て増えてきていると思い、抽選で走れないという方がこの何年かよりは多かったようなので、今、質問した。海外のエントリーの方が、落選者が多いと非常に残念かと思うが、国内ランナーと同様に抽選をされているということか。

- マラソンの方も、できるだけ海外から多く来ていただき、大阪をより知っていただきたいという趣旨でもやっており、国内に偏らないようにしているので、その辺は一定配慮した中で行っているかと思う。

- △ 障がい者スポーツの方だが、参加者数のうちに、障がい者という一括りにしても、色々な障がいの方がいる。身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者の中でも、肢体不自由、聴覚障がい、視覚障がい、内部障がいとか、色々種類があると思うが、そういった内訳とかは分かるのか。

- 内訳は、障がい種別には出していない。

- △ 支援学校のスポーツの健全な発達と社会参加の促進ということで、具体的には何か進んでいるのか。

将来、どういうふうにしていくのか。施設に出向けない重度障がい者の人とか、そういう人たちは、支援学校でスポーツをする機会を設けるとか、そのようなことを協議したりとかされていると思うが、何か進展とかあったら聞かせていただきたい。

- ファインプラザ大阪と稲スポーツセンターから、例えば、障がい者スポーツ用の物品を学校に運んで、そのまま出前授業をするということを、今現在、しているという状況である。管理職の先生方も変わられるので、まだまだ認知については、こちらから毎年のように発信していかないといけないので、何かその先の進展というところでいくと、まだ障がい者スポーツを普及するのに事業を継続して行っている、ということが今の現状になる。

- 事務局から令和6年度の各施策、それぞれの取組状況を説明していただいたところ、皆様の意見も出て、第3次計画の基本理念として、障がい者スポーツ、高齢者スポーツ、学校スポーツ、スポーツツーリズム、スポーツによる地域活性化、スポーツと健康という、個別の分野に様々な報告を詳しくいただいた。

また、事業を拡充し、取組を実施している部局もあって、引き続き、スポーツを取り巻く環境の変化に注視しながら、取組を進める必要があるのではないかと思います。

来年度は、いよいよ大阪・関西万博が開催される。次の計画の見直しで触れられているが、万博のインパクトを最大に活用しながら、大阪府のスポーツ推進に取り組んでいかれることを、ぜひお願いしたい。

(2) 議題2 第3次大阪府スポーツ推進計画の見直しについて

・第3次大阪府スポーツ推進計画（部会報告案）について

■（資料3により前回計画部会の主な意見について、資料4により部会報告案について説明）

△ 最終案ということで、少し軽微な所で、41ページの「(2) 大阪・関西万博開催を契機とした取組について」は、語尾が「施策を展開している」とあるが、「施策を展開していく」の方が、主体的な意思ではないか。理由として、やはり大阪・関西万博が開催されるということは、スポーツ推進計画においても非常に大きなポイントであり、万博自体はスポーツイベントではないが、大阪に多くの人が来る。目的をスポーツに置いて来る人がスポーツツーリストであるのと同時に、「こんなものもあるならスポーツを見ていこう、スポーツに関わっていこう」という二次的なツーリストもいることを考えると、たくさんの人が来て、「大阪ってスポーツですごく楽しいまちなんだな」と思ってもらいたくことが、非常に重要である。

あるいは、サイクリングロードについては、新たには増えていないが、今、造ったものがあるので、万博に来た人たちの、いかに既に大阪にあるサイクリングロードに参加してもらい、知っていただくかということが、二次的なツーリストを増やしていくためには非常に重要なポイントである。

であるので、ここには、「幅広い分野にかかわるスポーツ施策を展開していく」とあるのは、そういう意味でも、大阪にお越しいただくであろう多くの外国人の方に、大阪のスポーツの魅力を知っていただく努力をすることが、スポーツコミッションも含めて大きな役割かとも思った。

万博に限らず、大阪マラソンもあるが、既に大阪に来られる方がいるので、その方々のアウターで外から呼んできた人が、いかに大阪の中での動きを広げていくのか。マラソンを走って、たこ焼きを食べて帰ってしまうのではなくて、ぜひ観光もしていただきたいし、他のスポーツにも関わっていただきたいということを考えると、「幅広い分野にかかわるスポーツ施策を展開していく」という内容で、そういう思いを込めて、この部分の語尾を変更していただいた方がいいのではないか。

文章としては、ほぼ完成だと思うので、これでよいと思う。

△ 府下の色々な市町村の担当の方々との連携事業というのは、前にも申ししたが、非常に重要ではないかと思っていて、「一緒にやりましょう」と、オール大阪でやっていくことが必要かと思うので、そういった風通しのよい組織、コミュニケーションを取る機会が増えていくといい。

数値目標がはっきり出たので、国と同じ70%を目指す。これは、「ま、書いておけば」という話ではなくて、やはり我々の宣言だと思う。今年と同じようだと増えていかない訳であるから、ここにある施策を通して、どういうふうに増やすのかというロジック、道筋をきちんと考えていかなければならない。

主要事業は、ここにあるものが概ね継続されていくと思うが、どんな人に告知をしたり、どんな工夫をすることによって、先ほど新規参入者の人数のご質問もあったが、こうやってこれを増やすということを、しっかり考えていかないと難しいし、絵に描いた餅になってしまうかと思うので、「じゃ、具体的にどうやって」ということも、そのロジックをきちんと考えていかないといけない。我々は計画を立てた当事者なので、我々も一緒になってやっていかなければいけない。

先ほどの質問にもあった大阪マラソンの大会エントリー数、これは走っている人ではないということ。抽選があるなら、それに影響されるので、ここに具体的な数字を出して良いのか、ということも思った。

多くの方に来ていただくのはいいと思うので、どういう方策で増やすのか。別に海外向けに何のアプローチもしていないのに、勝手に増えるのを待つということではないと思うので、ここに書いた以上は、どうやってそれを達成するのか、ということが必要になってくる。そういったことが次の具体的な事業計画に落ちていくだろうし、落としていかなければいけないと思った。

△ 「スポーツ参画者（する、みる、ささえる）の割合」だが、ウォーキングとかを、結構たくさんの方が、高齢者も若者もしているが、それをスポーツとして捉えていない人が多いような気がする。スポーツという捉え方、一般の人たちに捉え方をきちんと伝えていくことによって、100%近くになっていくと思う。

うちの家族もウォーキングを、ほぼ毎日しているが、「それ、スポーツしてるの？」と聞いたら、「いや。スポーツだとは思っていない」と言うので、身体活動がスポーツと言うのなら、それは、もう私はスポーツだと思う。そういう具体的なことを周知することで、100%にほぼ近づくのではないかと思った。

□ ジョギングもスポーツと、私もこの頃はそう捉えているが、若い人はそう捉えていない人もいるのか。

△ そのようなので、スポーツの捉え方というところを、きちんと伝えていった方がいいのかと思う。

△ 私は、結構、「健活 10」というのが、響きが面白いし、何か元気が出そうだから、これは面白いと思っている。丘みどりさんも好きなので、昨日、動画を見たが、元気がよくて、働き盛り、子育て世代と言うのかと思うが、これも、どのようにして普及するかというところで、前回の委員をさせてもらった時に、多様な年齢層に響くようなダンスということで、曲も与えていただいて作ったが、MBS の 1 階で、万博のイベント的な形で踊らせてもらったが、それをどう普及するのか、なかなか具体的に見いだせなかった。

「めっちゃ WAKUWAKU ダンス」は、一応子どもたちということで、参加も府民から募って定着しつつあって、色々な所に広がっていている。イベントの一環として作るが、その発展の仕方や普及の仕方は、「作った方が考えなさい」と言うのかも分からないが、結局、大学生となると、T i k T o k で、SNS で発信するという、そこでバズるかバズらないかというところで、普及度が見えるのかと思う。

働き盛り・子育て世代の人の運動不足というのを、一つのテーマとして作られているので、ぜひこの発信の方法を具体的に考えていただけたらと、自分の反省とかもあるが、それを一つ思った。

△ 報告案の 44 ページの参考指標を見ると、「体育の授業が楽しい小学生の割合」を増やすということが、やはり目先ではなくて遠い先のことを考えると、その世代が確実に中学、高校へ行って部活動をする、そこから成人になり、スポーツ人口の割合としては、高齢者の方が多いと思うが、やはりこれからの世代をどう支えていくかというか、それが well-being につながっていくと思う。

小学校の体育の授業が楽しいと、唯一、そこで 2 回か 3 回しかない授業で、体を動かすという貴重な機会でもあるし、ぜひその授業の充実をより図っていただきたいと思った。

近くの子だが、女の子が 4 月から中学校に上がるということで、すごく楽しみにしているが「何の楽しみが一番？」と聞くと、「部活動ができることが楽しみで」と言っている。ある男の子も、同じように聞いたら、「中学校に行ったら部活動ができる」と、すごく目を輝かせて言ってくれて、やはり一つの成長の区切りとして、中学校へ行ったら部活動をしたいというのが、そう言ってくれることがすごくうれしいと思った。地域移行が進む中、大変だとは思いますが、ぜひうまくいくようにご努力いただきたい。

△ まず、「スポーツ参画者の割合」を 100% ということで、高い目標を掲げているが、先ほどのウォーキングに関しては、スポーツ庁のスポーツ実施率の調査では、「ウォーキングなどを含む」と設問としてある。実際に高齢者の 7 割ぐらいはウォーキングをしていると回答しているので、おそらく同様の調査で行っているとしたら、ウォーキングもスポーツの一つとして捉えていいのだと理解されている。確かにウォーキングと言っても、ノルディック・ウォークとか、色々なものがあって、街歩きのようなものもスポーツとして捉えていいかと思うが、もう少し具体的に例を挙げると、回答率はより上がるのかと思う。

具体例を示すと、「ささえる」が極めて割合としては少なく、「スポーツをささえる」というのが、何をしたらスポーツをささえることになるのか、という具体的なイメージが湧きづらい方が多いのかと思う。

例えば、ふるさと納税とかで、先ほどの指導者を派遣するようなところに寄附ができたりするのがあるのか、何らかスポーツのために何か力になりたいと思うことこそが、「ささえる」ということなので、やはり具体的にどういうことが「ささえる」ことにつながるか、という具体例を発信していただくといい。

△ 部活動の地域移行の件も、ご説明いただいたとおりで、確かに目標値として、他の項目と同じように掲げることは難しいので、「事業の活用市町村数」ということでお示しいただいた。今後、これをできるところから、進捗状況を把握しながらさらに進めていく、ということだが、「進捗状況を把握し、成果の普及を図り」というところが、今後、計画の残り期間でどう進めていく方針なのか、少し具体的に分かりにくいのかと、私の感想としては思う。

既に部活動大阪モデルをされている市町村のケースをモデルとして、横展開を図っていくということが、今後の残る期間で進めていくイメージなのか、部活動大阪モデル以外の方法で事業を独自に進めておられる市町村があれば、いずれの市町村でも、ある程度独自の方法も含めれば、地域展開ということに着手はできているが、もっと地域に移行していく所の内容を深めていくのか、まだまだ地域展開が無理だと言っている所が多くて、そういう所に大阪モデルの市町村のケースを少しずつ当てはめていくイメージなのか、その方向性が大阪としてはどちらなのか、それが少し分かりやすいと、よりよいのかと思った。

例えば、まだまだ着手できていない市町村があれば、成果を上げている所の普及を図ると、できるだけ着手していない所を減らしていく方向性なのか、それが分かるような文章だと、よりよいと感じた。

△ 私が一点気になったのが、45 ページの最後の行だが、「次期計画の策定を見据えつつ」という、次期計画策定のことを言うのはいいことだと思うが、その後に、本計画期間中において何か大きな変化が生じた場合は見直しを行う、というようなことが書いているが、前回の時はコロナがあったので、「コロナが終息したら変えないといけないよな」ということはあったと思う。

次期の計画が、令和8年度には考えなければいけないので、実質、もう1年しかない中で、また柔軟に変更する予定があるのか、実際に本当に対応するのかというところを事務局にお伺いしたい。

■ この思いとしては、例えば、何か大きな国の動向等の変化があれば対応していくという思いを語っているところで、今、委員のおっしゃった次期計画が1年後というところで、すぐに次の計画の策定にあたり、事務局として色々検討していかなければいけない時期ともかぶるのではないかと、というのはそのとおりだと感じたので、この記載の部分について、誤解を与えかねないような内容であれば、変更等も含めて考えていきたいと思っている。

△ 分かりました。もし、必要があれば修正いただければと思う。

(3) オブザーバーの意見

- ・ 私ども大阪市も、大阪府と一緒に、「大阪いのち輝くスポーツプロジェクト」や「大阪マラソン」と色々連携などもさせていただいており、この場をお借りして、日頃のご協力・ご連携にお礼申し上げる。

本日のご意見の中でも、色々出ていたかと思うが、やはり今年は一番大きなところで万博がある。万博のインパクトを活かして、万博後も、大阪というまちの都市の魅力や、スポーツの魅力、それらをきちんと発信していく、作り出していくということが、非常に重要である。

本日、お示しいただいた計画の中でも、「活力あるまちづくり」とか、「成長するスポーツ」というフレーズなども出てきており、他都市を見ても、今年、2025 年は東京で世界陸上が実施され、来年は愛知県でアジアカップが、そして、九州では昨年、人気のあるバレーボールのネーションズリーグが実施された。

昔からあるスポーツ以外でも、大阪府も非常に力を入れているアーバンスポーツなどでは、千葉市が「X Games Chiba 2024」という大会なども実施して、大規模なものも含めて、色々な競技大会が実施されることで、都市のスポーツの魅力が発信され、「みるスポーツ」の推進につながり、それが「するスポーツ」につながっていくことなども期待される。

こういった面などでも、また大阪府とも一緒に、私ども大阪市も取り組んでいけたらと考えているので、引き続き、よろしくお願いしたい。

- ・ 今回の計画は、数年前に立てられて、スポーツツーリズムというところの記載をいただいている。大阪には、本当にたくさんの観光コンテンツがあるが、我々観光局としても、やはりスポーツは大きなコンテンツとして捉えていて、プロスポーツ団体があったり、スタジアムを持っていて大会が開催できる都市ということもあったりとか、今回の計画の中でも記載していただいているように、府内にはトップスポーツチームの大規模スポーツ施設、サイクリングやアウトドアスポーツが楽しめる自然環境、こういった記載もある中で、大阪市内に集中している観光客は、やはり大阪府内のもっと良い魅力も知っていただけるような体験というのが、今の記載のような大阪府内の魅力にもあるのではないかと考えている。

トレッキングやハイキングみたいな所は、大阪市内ではなかなか体験しづらいが、大阪府内の自然豊かな所では本当に楽しめる所もあり、世界的なスポーツの大会も一つの集客の装置として、大きなコンテンツになり得るので、我々観光局が取り組んでいるスポーツツーリズムの部分と、今回の計画、やはりスポーツツーリズムというところを記載いただいているということもあって、我々ができることを含めて、ぜひ協力できることは、積極的にお手伝いをしたいと考えているので、よろしくお願いします。

ただ、観光の部分は、やはり流動的なものもあって、大阪・関西万博が開催される 2025 年以降、どのようなレガシーになっていくのかということを見ながら、様々な修正とかアップデートをしていければいいのではないかと、とは思っている。

個人的にもマラソンをしていて、過去に大阪マラソンに5回出ていて、本当に良い大会だと思っている。こういった大きな大会の継承も、我々も積極的に協力していきたいので、引き続きよろしくお願いしたい。

(4) まとめ

- 委員の皆様からご指摘いただいた部会報告案、事務局から提案をさせていただいた中でのご意見の振

り返りをさせていただく。

まず、修正点の検討という所で、一つ目、41 ページの「(2) 大阪・関西万博開催を契機とした取組について」というところの最後の文言、「施策を展開している」ではなく、「施策を展開していく」と、未来思考のような形で考えていくのはどうか、というご意見について、また事務局でも検討させていただき、反映をさせていただけたらと考えている。

もう一つ、45 ページ「なお」以降のところの「第4次計画の策定を見据えつつ」の後の文言について、ここの部分をもう少し事務局の思いをきちんと伝えられるような文言はないか、というご発言をいただいたので、その部分の箇所については、また検討させていただき、記載の変更等も考えていきたい。

全体を通して、委員の皆様からいただいた内容として、実際に具体的な施策、万博というところを契機として、「じゃ、それをどう活かしていくのか」というところも考えていかないといけない、スポーツの施策にそれをどう結びつけるか、というところが必要だということも、お話を聞いて感じている。

スポーツを実際に「する」について、まだまだ周知不足ではないか、ということについては、実際に我々が目標値としているのが、国のスポーツ実施率の調査を取ってきて、実施率を検証していくということになっているので、我々大阪府としてできることを考えると、実際に「する、みる、ささえる」というのがどんなものか、ということ発信していくのも必要ではないかと考えている。

色々な「ささえる」というところもあり、我々スポーツ振興課の方では、「なみはやスポーツ振興基金」というものがあって、スポーツの取組をささえる基金も作っており、その部分の周知もしていくことが、この施策にまた結びついていくのかと考えているので、今いただいたご意見を踏まえ、第4次計画策定に向けて、引き続き検証等をしていきたいと考えている。

□ 本日は、本当に色々と活発な議論をいただきまして、ありがとうございました。

事務局も、これからまた大変ですが、もう一踏ん張りお願いしたいと思う。

本日の議論を踏まえた修正点については、部会長の私に一任していただく、ということによろしいか。

(一同異議なし)

では、これは全部私の方で一任させていただくということでお願いしたいと思う。

それでは、事務局と相談のうえ、部会としての報告を取りまとめて、1月27日に開催される大阪府スポーツ推進審議会において、私から報告させていただく。

昨年度より3回にわたり、委員の皆様から本当に貴重な意見をいただきまして、ご協力ありがとうございました。

3 挨拶

府民文化部文化・スポーツ室スポーツ振興課長挨拶

4 閉会

■事務局 今後のスケジュール確認